



内科・胃腸科・呼吸器科・放射線科

ゆとりが丘クリニック 便り

〒020-0638 岩手県滝沢市土沢541番地

TEL 019-699-1122 / FAX 019-699-1121

平成31年3月26日(2019) 第0070号



『わかれ』

院長メモ

✿「お亡くなりになりました。お悔やみ申し上げます。」いつものようにご家族の前に直ってご挨拶をする。在宅で母親を看取った息子さん「ありがとうございました。」という、思いつめた表情で母親の亡骸の脇に立ち、亡くなった母親の胸を何度も何度も押し始める。

息子は消防員になって2年目。「母さんが戻ってくるかもしれないので・・・」と言い訳をするようにつぶやきながら、肺癌でやせ細った母親の胸に心臓マッサージを続ける。押されるたびに母親の胸は上下し、息子の顔からほとぼしる汗が母親の小さな胸に降りそそいだ。

✿膵臓癌で母親を看取った次男さん。秋田に住んでいた母親を自分の近くで看たいと言って、滝沢のアパートの一室を借りて呼び寄せた。ある日の早朝に、狭い部屋いっぱいに置かれた介護用のベットの上で、隣室に寝ていた息子が気が付かないうちに母親は旅立った。息子はどうしても母親が息を引き取った時刻が知りたいと言う。涙で顔をくちくちやにしながら「自分、今、警察官やっています。肛門体温が分かれば母親の亡くなった時間が分かると思って。」傍にいた在宅看護師が希望に応えた。

✿まだ若い息子さんを失くした60歳代の父親。

患者である息子は、30歳を過ぎて間もなく進行性の胃がんを患い、気が付いた時には肺や肝臓にも転移していて、癌性の疼痛コントロールだけを目的として在宅へと移行した。

教員であった父親は彼には常に厳しかったようで、患者が病に臥せるようになっても「特別やさしい言葉を掛けてくれるわけではないんですよ。父さんらしいでしょう？」と笑いながら私に話してくれたこともあった。

そんな父親に私が別れの時を告げると、息子の亡骸を布団から抱き起し息子の上半身を覆うように抱きかかえながら「先生、私、この子を生まれて初めて抱っこした時とか、出張から帰ってくると玄関先へ走ってきて“父さん、お帰り”って私に飛びついてくるのを抱き上げた時とか、その時々この子の重さを覚えているんですよ。この腕がその時の重みを忘れていないんです。不思議なもんですなあ・・・」と喋りながら抱きかかえた小さい子供をあやすように、ゆっくりと左右にゆすりながら私に話し掛ける。

その話し声が時々嗚咽で途切れ、白髪の混じった頭が細かく揺れると、そのたびに息子の胸に大粒の涙がポタポタと落ちた。

4月休診・診療時間のお知らせ

(日曜・水曜・祭日は休診日です) 平成31年4月

- ★ 4月13日(土) 午後休診
郡市医師会長協議会
出席の為
- ★ 4月27日(土) 休診
研修会 出席の為

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3 午前検査外来	4	5	6
⑦	8	9	⑩	11	12	13 ★
⑭	15	16	17 午前検査外来	18	19	20
⑳	21	22	㉒	25	26	㉔
㉘	㉙	30	5/1	5/2	5/3	5/4
5/5 休日当番医	5/6	5/7	5/8	5/9	5/10	5/11

○=休診日 ★=診療時間変更
※都合により変更になる事がございます。ご了承願います。

ゴールデンウィーク休診のお知らせ

4月27日(土)～5月6日(月)まで休診
となります
※5月5日(日)は休日救急当番医の為 診療いたします

「治ってよかった!」の先を考える

医療が進歩した昨今、がん患者の5年以上の生存率は実に60%を超えるようになりました。しかし、がんの宣告を受けて、本格的な治療を開始する前に仕事をやめてしまう例が少なくありません。「治ってよかった!」のと同時に、その後続く長い人生を考えることも大切です。がんのみならず、糖尿病、高血圧、肝臓病、腎臓病などの病気を患うことがあっても、治療と仕事を両立させていくことは人生の重要課題といえます。

治療と仕事を両立させるために

病気を持つ方が治療をしながら仕事を続けたい場合、まずは主治医やかかりつけ医への相談が不可欠です。治療の過程がやや複雑ながんなどの病気であれば、主治医が患者さんの職場で活動する産業医^{※1}と連携を取りながら治療を進めることも可能です。さらに産業医の活動を理解している主治医であれば、仕事の内容を含めて相談に乗ることもできるでしょう。



高齢化と共に病気を持つ勤労者が増加

私たちの社会は高齢化がますます進んでいます。そして、国も高年齢者雇用安定法などを介して働く高齢者を支えようとしており、人口全体における高齢労働者数は増え続けています。人は歳を重ねるにつれて何らかの病気を患うことも増え、働く人々の誰もが病気になる可能性は十分にあり得ます。主治医やかかりつけ医、あるいは各地のがん相談支援センター^{※2}や、治療就労両立支援センターならびに同支援部^{※3}といった支援機関の力も借りながら、自分や身近な人が働きながら病気を治せる環境作りを考えていきましょう。

※1 労働者の健康管理などについて専門的な立場から指導や助言を行う医師
※2 全国のがん治療連携拠点病院などに設置されているがんに関する相談窓口
※3 全国30か所の労災病院に設置されている、病気を抱えながら働く人のサポート機関

仕事と治療を両立させる

指導…独立行政法人労働者健康安全機構 理事長 有賀 徹
(日本医師会「日医ニュース」健康心臓No.514より抜粋)

このマガジンは当クリニックホームページ(クリニック便り)でもご覧になれます。

ゆとりが丘クリニック

検索